

第2回 静岡市食の安全・安心意見交換会

平成19年2月19日（月）

静岡市食の安全対策推進連絡会 会長 あいさつ

【保健衛生部長】 皆さん、こんにちは。保健衛生部長の関と申します。日ごろは静岡市の市民の方々の食の安全・安心につきまして、いろいろとご指導いただきましてありがとうございます。また、本日はお忙しい中、意見交換会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

食の安全といいますか、健康危機管理といいますか、今年になって2つの大きなニュースがありました。1つは、鳥インフルエンザ。鶏舎において大量に死んだということ、そのウィルスはH5N1型のウィルスということ、これが家畜等に伝染してヒトに移ると、それこそ新型インフルエンザということで、ヒト・ヒト感染で非常に大流行を起こす。スペイン風邪のような流行を起こすんじゃないかということで、今、非常に問題になっております。静岡市の保健所におきましても、この新型インフルエンザの行動計画の策定作業がもうじき終わります。それによって、フェーズ1から6までの行動計画、それから、終息した後のパンデミックの終息のことだとか、そういう行動計画を今、最後の仕上げでやっているところであります。

もう一点は、食の安全・安心にかかわる問題で、不二家の期限切れの食品の問題でございます。それこそ、これは企業のモラル、体質がいかなものかという、消費者を、私に言わせれば背信行為を企業がやっているということで、非常に遺憾に思っております。

そうということで、皆様に1年間、2年間の方が多と思いますけれども、食の安全についてご討議をいただきました。本日は、来年度のアクションプランのご検討と、それから、静岡市における食の環境整備についてということで意見交換をお願いするわけでございます。静岡市におきましても、ご承知のとおり、来年度は食育推進計画

をつくることにしております。今回の議会には、平成19年の当初議会で食育推進会議の設置条例の提案もさせていただいております。この条例は、主に委員の構成でございます。消費者とか学識経験者とか、食の関連する流通も含んだ生産者等の関係委員、それから、これは市長が会長ということで予定しております。市長以下、全市を挙げて食育推進計画を立てていきたいというような条例のことでございますので、来年度早々には計画の策定という作業に入りますので、皆様方のいろんなご意見を賜りたいと思いますので、その節はよろしくお願いしたいと思います。

食育といいましても、3つのことだと思います。

1つ目は、食選力です。食を選ぶ力。安全か、それから、これは最近叫ばれておりますメタボリックシンドロームに影響される食物かどうかという食を選ぶ力。

もう一点は、食のマナーのことでございます。特に、家庭において、せっかく親子そろったのに、お父さんはカレーライスで、お母さんがスパゲッティで、子供はピザ。しかも、テレビを見ながらということでは、やはり偏食とマナーの問題につながっていますので、そういうようなマナーの問題。

もう一点は環境のことでございます。国内の自給力が40%でございます。これを何とか上げたいということで、自給力を上げる。この3つが今の私なりのテーマじゃないかと考えております。

本日は傍聴の方々が大勢お見えになっておりますので、最後には時間があるかと思っておりますので、傍聴の皆さんにこのテーマについてのご意見をいただいて、本日の意見交換会が成功裏におさめることを祈念いたしまして、あいさついたします。よろしくお願いいたします。

第2回 静岡市食の安全・安心意見交換会 第1部

平成19年2月19日（月）

静岡市食の安全対策推進事業

平成19年度静岡市食の安全・安心アクションプラン(案) について

【仁科座長】 皆さん、こんにちは。座長を仰せつかりました仁科でございます。昨年の8月に行われました意見交換会に引き続きましての座長でございますが、時間も限られているようでございますので、会の進行にご協力をいただきたくよろしくお願いしたいと思います。

まず最初に、昨年の8月に開催されました第1回の静岡市食の安全・安心意見交換会におきまして、静岡市が告示しました安全・安心アクションプランにつきまして、いろいろと委員の皆様にご意見をいただいたところでございます。これらのご意見を踏まえまして、本日、19年度のアクションプラン（案）が再び示されておりますので、まず、この内容につきまして、市当局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】 （資料にそって、説明。）

【仁科座長】 ありがとうございます。ただいま、8月30日にご意見をいただいた内容に基づきまして、市から19年度のアクションプランの修正案が示されたわけですが、きょうここに初めてご出席されている方もいらっしゃるようでございますので、8月30日にこの意見交換会で出ましたご意見について、私なりにちょっとまとめてありますので、ご紹介してから修正案についてのご意見を委員の方から伺いたいと思います。

8月30日に出ましたご意見では、まず、輸入食品に対する収去検査件数を増やすことはできないか。2番目には、遺伝子組み換え食品の表示の正確性に疑問があるのではないか。どういう取り組みをするのか。それから、食の安全・安心に関する施策

の広報活動を全市民的に実施することはできないのか。それから、市の広報活動として研修会の出席者については、人数の制限を設けない方向で検討してほしい。5番目に、試験検査結果は市民にできる限りフィードバックしてほしい。6番目に、子供たちも含めた農作業の体験学習は非常に重要である。これは今日の2番目に行われますテーマにも該当する内容でございますけれども、そういうことで推進してほしいというご意見が出ております。さらに、7番目としまして、学校給食において、地場製品の積極的な利用はできないか。それから、8番目に、外食産業における提供食品について、積極的な栄養成分等の表示ができないか。9番目に、市民がわかりやすい情報の提供をしてほしいということが大方のご意見だったように記憶しております。

それでは、ただいま市当局から説明がありましたアクションプランの19年度修正案につきまして、委員の方からご意見をいただきたいと思います。ご意見ございませんでしょうか。ただいま説明があった内容によりますと、実際に実施する件数も当初示されました案よりも多くなったということで、かなり市のほうで検討されているように思いますが、いかがでしょうか。

ございませんでしょうか。私から、始まる前にお聞きしておきたいんですが、静岡市で平成18年に発生しました食中毒はどれくらいか、わかっておりましたら、参考までに教えていただきたいと思います。

【食品衛生課】 食中毒の発生状況でありますけれども、昨年1件発生をしております。原因としては、牛レバーのO-157ということで1件のみ計上されております。

【仁科座長】 ありがとうございます。ほかの自治体に比べて静岡市は非常に少ないということを聞いておりまして、昨年来、安心・安全のアクションプランがそういう面で反映されているのかなという感じも受けましたので、あえてお聞きしました。ありがとうございます。

【小澤委員】 今のお話の関連になるわけですけど、先ほどの部長さんのお話の中に、不二家の話が出てきたんですけれども、昔から、何となく私たちはイメージ的に、製造の方がいらっしゃるんですけど、何となく食べ物屋さんがつくっているものは丸々安心できない部分が心のどこかにあるわけですよ。ですから、自分の口と目で見ても、いいとは言っている、これはいいのか、悪いのか、自分で判断できるようになっていないとまずいかなと。私たちはそういうのを自分で判断できるように、ちょっ

と食べてみて、あ、味が違う、これはまずいといって食べるのをやめるとか、そういうふうにすると、ある程度の食中毒とかそういうのを防げるわけですね。

しかし、昔から食べ物とか、家庭なんかでもそうなんですけど、ゴキブリなんていくら追い払ったって来るんですよ。来なくていいと思ってきれいにしても、いくらやっても、外から持ってくるわけです。中には、ネコがくわえて持ってくるというものもあるわけです。そういうふうにすると、食べ物を製造しているところ、不二家さんとかああいうところには、とにかくゴキブリにしろネズミにしろ、魅力的なものが山ほどあるわけです。そういうのをどうやって防いでいるのか。静岡の場合は、どういうふうに監視というか、そういうものをしていて、それで、食中毒がそんなに少ないのかというところ、どういうやり方をやっていらっしゃるのか、ちょっと伺いたいと思うんですが。

【仁科座長】 食品衛生監視の対象施設に関しましては、静岡市での施設基準というのが決まっているわけですね。そういうことで、特に防鼠・防虫設備に関する監視指導というのは、監視の中の重要な項目かと思えますけれども、そういう点について、ちょっとお話ししていただければと思います。

【食品衛生課】 立入検査のときに、多くの施設について、衛生台帳とかそういったものがありまして、その後ろにも防鼠・防虫の方法とか、あるいは頻度、そういったものがあるわけですが、そういったものを確実に確認していただいて、実行するようにというふうに指導しております。

それから、我々もそうなんですけど、例えば、年に何回という話になると、いつやったかということをなかなか忘れてしまいがちなんですけど、そういったものを確実に記録にとるようにということで、定期的な防鼠・防虫を行うようにという指導を行っております。

あと、衛生講習会も年に百数十回やりますけれども、そのたびに必要性を述べているという形でございます。

【仁科座長】 ありがとうございました。この防鼠・防虫という設備以外に、どういうふうな駆除を行ったかということも記録には残しているわけですね。多分、薬剤を使ってネズミとか昆虫を駆除するということについては、薬剤の影響ということが間接的に生じる可能性があるわけですので、多分、その辺についても、記録によってそれを確認しているということかと思えますけれども、そういう解釈でよろしいで

しょうか。

【食品衛生課】 そのとおりでございます。

【仁科座長】 ありがとうございました。先生、よろしいでしょうか。

【小澤委員】 帳簿のチェックだけでこれだけ食中毒が少ないというのは大したものだなと思っております。これからも中毒がないといいなと思います。よろしくお願いします。

【仁科座長】 よろしくお願ひしたいと思います。食中毒の原因物質ということ考えた場合には、皆さんご案内のとおりでございますけれども、鼠族・昆虫による影響以外に、食材そのものの汚染ということが非常に問題になってきているわけでございます。食品監視におきましては、食材からの二次汚染ということをかなり重要視した監視が行われているというふうに市当局から私も伺っております。そういうことで、静岡市はせっかく食中毒が少ない市として挙がっておりますので、ぜひそういう面で、また今後とも、監視件数も増やしているようですけれども、積極的に指導していただきたいと思います。この件につきまして、飲食業のほうで、多分、保健所からのいろいろな指示事項、あるいは、研修会を通して、今まで市がやっている施策について、何か注文みたいなことはありませんでしょうか。

【藤嶋委員】 特に注文ということはないんですが、年に1回検便をやっていたものが今度は2回になるとか、今まで以上に努力していくという方針に沿って組合なんかも一生懸命やっているわけです。また、食中毒を起こしたら、結局、自分の店が損をするわけなので、これは一軒一軒の店が真剣に取り組むしかないわけです。そういう方向で頑張っています。

【仁科座長】 ありがとうございます。ただいま市からお話を伺った中に、実際の衛生管理上、実施したものを記録しておくというお話があったんですが、多分、これは総合衛生管理製造過程という食品衛生法に基づいた大手の商業施設については義務づけられているわけですが、例えば、小さな飲食店なんかについては、今のところ、自主的なものとなっているはずですが。静岡県では、食品衛生業界が中心となって、ミニHACCPという内容で、衛生管理製造過程に準じた衛生管理を行うような施設に対しては、技術、あるいは知識、それから、システムについてのサポートをしていると伺っているんですが、市でも同じように行われていると解釈していいわけでしょうか。

【食品衛生課】 今、先生がおっしゃったミニHACCP事業につきましては、市としては特にやっております。ただ、管理運営基準という基準の中で、各記録をとるということ、それから、先ほども出ましたけれども、検便を2回やっていたくという取り決め事をしていまして、それに基づいて皆さんに努力していただいているということです。

【仁科座長】 ありがとうございます。衛生管理記録ということを既にもうやられているということでございましたので、ちょっと方向が違ったかもしれませんが、質問させていただきました。ありがとうございます。

ほかに何かご意見ございませんか。はい、どうぞ。

【杉山委員】 意見というか初歩的なことの質問で申しわけありませんが、資料の13ページの4の「地産地消を推進します」という項目のところですけども、ここに行政が現場に対して「補助する」「助成する」「支援する」という言葉が使われているんですけども、その言葉の使い分けの意味、内容がもし区別がつくものであったら、実質的にどういうものなのか、よく知りたいのですけれども。

【仁科座長】 いかがでしょうか。

【農業振興課】 農業振興課の荻野と申します。

13ページの中で、訂正が多いものですから見にくくて申しわけございません。訂正後の1、「農業への理解と地域農畜産物消費拡大を目指した活動を支援する」としまして、その「支援」の中に農業まつり、畜産まつりへの補助。この補助は補助金を出しております。あと、補助の言葉の中では、私どものところで実施しているものについては、そのようにご理解をいただきたいと思います。

【水産漁港課】 水産のほうですけども、水産につきましても、水産の関係のまつりにつきまして、助成、補助金を出しているという形です。

【杉山委員】 ということは、「支援」という言葉を使って、実質的には補助金、助成金という形で現場を応援するというふうに理解すればいいということですね。

【農業振興課】 まず、補助金を出しているという点と、実際に現場へ職員が伺って、裏方としてお手伝いをするようなこともございます。そういうことで、まず、支援として大きく項目として中へ「補助等」という表現にさせていただいたんですけども。今、水産からお答えしました水産まつりの助成というのも、すみません、同じことなんですけど、違う言葉になってしまっている。補助金を出すということを部署に

よって「補助」と言ったり、「助成」という言葉を使ったりしてしまっていると今、感じております。

【仁科座長】 言葉の統一というのはできないんでしょうか。

【農業振興課】 事務局のほうと相談、調整しまして、なるべくわかりやすく、同じような言葉に変えて修正させていただきたいと思います。

【仁科座長】 そうですね。よろしいですか。

【杉山委員】 はい。

【佐藤委員】 地産地消の関連で、学校給食のところにそういう地産地消らしき文言が出てこないですね。他の県や市では、結構、地産地消を地場野菜という形で取り組んでいます。ですので、ぜひこのアクションプランの中にそういう文言を入れて、いただけたらうれしいなと思います。

続けて、幾つかよろしいでしょうか。まず最初にお聞きしたいのは、さっき基本方針のところで、食の安全の確保のための施策のところの1で「指導」を抜いたのですが、その抜いた理由をお聞きしたいのが最初の質問です。

それから、前回のときも私はずっと言っていましたが、計画数を見て、蒲原と合併したことがあって、清水区のところをもうちょっと膨らませてほしいという提案をさせていただきました。その辺を考慮された計画になっているのかどうかというのが2つ目にお聞きしたい点です。

それから、3つ目は、例えば、さっきの13ページのところで、地産地消の話が出ていますが、非常に具体的に農業まつりとか畜産まつりへの補助という形で出ていますし、例えば、6のところに、清水おさかなふれあい事業を助成とかと出ているのですけれど、こういうふうに具体的に書くのはいいと思いますが、実施する中で、これに載っていないから出せないみたいな形になっていってはまずいかなと、そんな危惧を持っております。その辺、あまり具体的に、例えばみたいな形の書き方のほうが、いろんなところにあまり流用しちゃいけないのですけれども、流用できるかなと思いました。

以上、その辺のことでお答えいただければと思います。

【仁科座長】 13ページの4のところ、市から地産地消を推進しますという内容で示されておりますね。その「地産地消」という言葉をもう少し強調して入れてほしいということのようですけれども、学校給食のほうにも入れる。その辺を踏まえて、

いかがでしょうか。

【事務局】 本日、学校給食課が来る予定だったんですけれども、急遽来れなくなったということで、今のご意見につきましては、学校給食課のほうに伝えさせていただきたいと思います。申しわけありません。返事がちょっとできないものですから、よろしくお願いします。

【仁科座長】 わかりました。あとでまたそれは伝えていただいて、できれば何らかの形で入れていただく。これは学校給食課のほうから食の環境整備についてのところでも取り組みが示されておりますので、その辺のところでも、もしディスカッションできたらと思います。

あと、指導の件、「指導」という言葉が省かれたのはどういうことか。

【生活食品衛生課】 清水支所の生活食品衛生課の成川と申します。

蒲原地区の施設数の監視が別計で示されていないということで、別計というか膨らませてということでご意見があって、たしか8月のときもそういうご意見をいただきました。今回、全体的には増えているということで、細かく掲載していないということだと思うんですけれども、来年度、監視業務につきましては、食品衛生課のほうで全市一括で監視することになっています。その監視数につきましては、監視指導計画というところで、業種によって、例えば、製造業を少なくとも2回とか、飲食店についての、ある飲食店の営業については年に1回とか、そういう形で、監視指導計画というものを別個に予定しております。

そういう中で、当然ですけれども、静岡地区と清水地区と蒲原、全体の中で監視をするということになりますので、全体で2万4,000の監視を予定しているわけです。蒲原地区の飲食店の許可数ですけれども、例えば、清水区で言いますと、清水区が四千七百ちょっとありまして、蒲原町は全体的に278と相対的な数になりますので、それと、逆にもう一つ、静岡ということですか、全体を含めた中での割合になりますので、そういった比率でもって監視に行く。2万4,000掛ける許可数からいうと、全体の許可数分の蒲原地区の許可数といったような形での監視数になるかと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

【佐藤委員】 監視数に限らず、例えば、4ページを見ていただきたいのですけれども、計画数にこだわって申し上げるのですが、18年度と19年度とほとんど目標数値が変わっていないんですね。それで、この前から申し上げていたのですが、例え

ば、食品等事業者に対する衛生講習会の開催とか、学校給食事務の説明会とか、いろいろずっとあるのですが、全く18年度と19年度と同じ数字を並べているということで、前回、私が申し上げたその視点が抜けているのじゃないかなというのを思いました。

【生活食品衛生課】 その件につきましては、対象の許可業者の数もかなり変化があるということで、例えば、清水区と静岡地区の許可件数の全対数が、平成15年度が1万4,995、平成16年度は1万5,067、平成17年度に至っては1万4,777、かなりの変動があるものですから、その辺の変動を踏まえて、監視件数の予定件数を立てております。その辺のご理解もいただきたいなと思います。

【仁科座長】 私、まだよく見ていない面があるかと思いますが、監視指導件数に関しましては、重点監視ということで、昔のように、画一的にやるのではなくて、施設で、特に危害の発生が多いような施設を対象にして、そういうところを増やしていくんだというようなことをお聞きしたこともあるんですけども、その辺のことも含まれてという解釈でよろしいでしょうか。

【生活食品衛生課】 ご指摘のとおりです。そういった危害、例えば、細かく言いますと、今年度、あるいは前年度、具体的に言いますと、食中毒を起こした施設には、年度内に他の施設より多くするとか、あと、製造業ですね。特に大規模の販売店とかはAランクに位置づけまして、年2回は必ず監視に回るという形で、今回、資料をお渡しできていないようですけども、毎年、平成16年度から監視指導計画なるものを策定する義務が生じまして、その監視指導計画の中に、そういった監視の回数を示しておりますので、またの機会と言うと大変失礼ですけども、それらも参考にしていただければ、また、そちらのほうのご意見を募集するということがありますので、またご意見をいただければと思います。

【仁科座長】 ありがとうございます。

【藤嶋委員】 地産地消の支援に努めるというお話があるんですけども、地産地消の何か努力に対してお金を出すということなんでしょうか。というのは、中小企業さんが集まって、静岡グルメグランプリなんていうのをやるんですが、もちろん静岡のもので、前は静岡鍋対決みたいなことをやったんですけども、もちろん、静岡の食材を使って対決をするということで、実は、市から100万円予算をつけていただいているんですけども、どういう名目で出ているかわかりませんが、地産地消に

大いに貢献するということで、今、県にも要請して、お願いして出してもらうようにしているんです。地産地消の活動に支援をするということは、そういう意味で、お金を出すということなんでしょうか。そういう催しが成功するように、何らかの協力をしてくれるということなんでしょうか。どういうことなんだろうと思って、ちょっと伺います。

【仁科座長】 内容についてのご質問ですけれども、回答できますでしょうか。

【農業振興課】 農業振興課です。

今、委員さんがおっしゃった100万円の事業というのは、申しわけないんですが、私、そのことを詳しくわかっていなくて、どの部署から出ているのかということがわかりませんけれども、13ページの中にございますのは、地産地消というものを主に農業、水産業の今やっている事業をここへ書いたようなものでございます。それについては、ここにある表現で大体賄われていると思います。

しかし、最近、地産地消という言葉は大変広く使われるものでございまして、例えば、観光、商業、いろんな部署で、先日、おでんのまつりもございましたけれども、そういうところも関係してございます。その部署によって支援の仕方は、補助金を出すとか、裏方での応援ですとか、いろんな形態があるかと思います。今ここで地産地消の推進すべてが補助金を出すような形になるかどうかというのは、私、ちょっと把握していないので、お答えできないところでございます。申しわけございません。もしわかる部署の方がいらっしゃれば、お答えいただければとは思いますが。補助金を出すものもございまして、そうでないものもございまして。いろんな支援の仕方があるかと思います。

【仁科座長】 いかがでしょうか。

【藤嶋委員】 よくわからないけど、わかりました。

【農業振興課】 全部把握してなくて申しわけないです。

【仁科座長】 いただいているわけですね、実際に。

【藤嶋委員】 グルメグランプリについては、もう決まっています。

【仁科座長】 そういうところを通じて、内容はわからないんでしょうか。

【藤嶋委員】 もちろんわかりますけれども、ここで言う地産地消の支援というのは、どういうことかなということをちょっと。

【仁科座長】 それが含まれているかどうかということですね。わかりました。そ

ういうことで、またわかりましたら、アクションプランということとは別に回答していただければと思います。

そのほかございませんか。はい、どうぞ。

【白木委員】 意見ということではないんですけれども、追加資料の最後のところに、課名の変更に伴う修正というのがありますよね。そのところの一番上に、生活安全課が19年度から消費生活センターに変わると書いてあります。普通、センターというと、いろいろな機能というか、幾つかの課が総合的に集まって、非常に大きな仕組みといいますか、そういう機能を持った機関だと思いますけれども、安全課からセンターになったということについて、何か消費者に対する取り組みといいますか、そういうものが変わろうとしているのは何かあるんですか。ただ単なる名称の変更だけなんでしょうか。それはいかがでしょうか。

【生活安全課】 生活安全課の白鳥と申します。

この課名が変わったということに関してなんですが、消費生活センターという名称ですが、市役所の庁舎内にありまして、いわゆる課と同じ位置づけです。今までは生活安全課の中の消費生活センターというのは、係と同じ位置づけだったもので、係の位置づけが課にランクアップしたという形で、生活安全課では、消費生活センターと計量の担当と生活安全担当という所掌事項があったんですけれども、消費生活センターになるに当たりましては、消費生活センターの所掌事務と計量の所掌事務が入りまして消費生活センターになります。

それからまた、現在、消費生活条例を議会にこれから上程させていただくんですが、そういった消費生活条例、現在あります消費者保護条例を全部改正しまして、新たに消費生活条例を制定いたしまして、啓発事業であるとか、消費者の権利擁護事業であるとか、あるいは、事業者の指導等の強化等をこれから図っていくような体制に今後向かっていくと思われます。

【白木委員】 そうしましたら、19年度に、今まではなかったんですけど、センターとして追加するとか強化するとか、そういうようなのが具体的にプランの中に…

【生活安全課】 まだプランの中では具体的には挙がってきてはいないですけども、直接的になるかどうかわかりませんが、事業者指導ということが少しずつ進んでいくに当たっては、例えば、健康食品に関するトラブルであるとか、そういっ

たものについて、表示というとまた所管する課が変わってはきますけれども、そういったことに絡むトラブルの解消などにも従前よりは強化していくことができるのではないかなというふうには思っています。

あと、啓発事業については、例えば、教育委員会等と連携を図りまして、消費者として自立していく、そういったような面の消費者教育という実践に当たっていきたいというような考えではおります。

【仁科座長】 よろしいでしょうか。

時間が押してまいりました。ちょっと予定時間を過ぎていますが、ご意見……。はい。

【小澤委員】 大急ぎでちょっとお話ししたいと思うんですけれども、8ページのところの⑫に、私どもの会のことがここにちょっと載っているんです。静岡市食生活改善推進委員による地区活動というのが上のところ、食の安全の提供のための施策というところに載っているんですよ。私たちの会はボランティアなので、ボランティア活動のことを認めてくださってこういうふうに乗っているというのはうれしいことなんですけど、何となく、任意地区活動が施策の中に入るのはちょっとおかしいんじゃないのかなと思ったんです。地区活動との連携とか、支援するとか、後ろにくっついてくると、それが市の施策の中に入るのかなとは思いますが、どうでしょうね。頭のほうに疑問符がくっついたものですから、文字の部分だけなんですけど、どうなんでしょう。

【仁科座長】 健康づくり推進課、⑫のところですね。

【小澤委員】 市の施策というと市の事業でしょ。その中にボランティアの地区活動そのものが載っているという、何か違うかなと。だから、地区活動を支援するとか、連携するとか、何か後ろにくっつくそれは施策になるわけですから、それはそれでいいんだけど、これはずっとこういうふうに乗っているとどうかなと思ったものですから。

【仁科座長】 いかがでしょうか。言葉の問題でしょうから。

【事務局】 それでは、健康づくり推進課も所用のため帰ったものですから、私のほうでお答えさせていただきます。今、確かに委員がおっしゃったとおりかなと思いますので、「地区活動との連携」というような字句でいかがなものかなというふうに思います。

【小澤委員】 それなら結構です。よろしくお願いします。

【佐藤委員】 1つだけ。9ページですが、この前も私、申し上げたのですが、⑰のところで、「ビデオの購入」で切れているのですが、貸し出し普及とか、市民にも活用してほしいという気持ちがこういうところにあらわれてきたほうがいいかなと思っています。ご返事は要りません。

【仁科座長】 前回は極力利用してほしいという市からのお話もありましたので、その辺のところはわかりやすくしていただければと思います。

時間があつという間にたってしまいましたけれども、ご意見が出ていない方、よろしいでしょうか。

【小林委員】 要望だけ。食の安全の確保のための施策なんですけれども、農業に関する法律、この間、農薬取締法とか食品衛生法が改正されているんですけれども、市としてGAPの推進を考えているかどうか。適正農業規範というやつなんですけれども、これについて考えていることがあれば、お願いしたいと思います。

【仁科座長】 この中で、どのところが該当するのか、ちょっと。担当課はいらっしゃいませんか。

【事務局】 ちょっとお答えできるところがないということなものですから、申しわけありません。ちょっと調べさせていただいて、この中に盛り込めるものがありましたら、反映させていきたいと思います。

【仁科座長】 よろしくお願いします。あと、斉藤委員、ご意見出ていませんが。時間も押していますので、簡単に。

【斉藤委員】 食の安全に関する啓蒙活動、啓発活動に教育委員会という文字が少ないんですけれども、教育委員会としては、食の安全とか食育に対してどういう考え方を持っているのか。ほとんどが衛生関係とか消費センターであって、一番もとに、子供たちにおいしいものを食べさせようとか、食育を教えてもらいたい現場があまりにも、これを見てもおざなりの文章しか書いてないものですから、ほんとうにやる気があるのかどうか。

それと、各学校によって対応の仕方が、今、いろいろ聞いていますと、あまりにも食育とか現場サイドの給食に関しましてあまりにも違うものですから、学校教育は皆さん同一だと思んですけれども、校長先生とか教頭の意見によって、現場サイドの現場活動等が少ないようなんですけれども、その辺は教育委員会は何を考えているのか。

ほんとうの意味で食育をまじめに考えているならば、学校がもう少しこういう場に出てきて食育の問題の啓発活動をやってもらいたい、そちらから言ってもらいたいんですけども、ただ書くだけじゃなくて、こっちに要請してくればこちらも動くんですけども、各現場ではすごく動いているんですけど、学校教育の教育委員会と農業課とかそういう部分と接触がないものですから、単発的に来てそこで切れちゃう。したいんだけど予算もないから、山から来てお金がないから。それなら水産課とか農業課のほうからちょっとお金を助成してもらおうとか、そういうことを含めて、食育活動とか食に関して、現場は一生懸命やりたいんですけども、途中のつながりがないもので、もし教育委員会のほうで答えができる方がいましたらお願いします。

【仁科座長】 座長の権限で、時間が押していますものですから、ただいまのご意見は、今ここですぐそれをどう折り込むという問題でもございませんので、要望としてお聞きしておきまして、また将来に向かって、ただいまのご意見を反映させていくようなことでお考えいただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。それでいいでしょうか。はい、どうぞ。

【海野委員】 ……につきましては、関係各課で真剣に取り組んで成果を上げてほしいと思っています。1つ質問をさせていただきます、3ページの保育園の給食ですが、保育園に子供を通わせているお母さんたちの意見をいろいろ聞いてみると、それが正確かどうかはわかりませんが、静岡市立の保育園に対してだけメニューの指導しているということではないですよね。私立の保育園にも指導するわけですよね。静岡市立の保育園と私立の保育園との給食メニューに、割に格差があるんじゃないかとか、保育園によってすごく格差があるのではないかとか、子供たちがあまり好きでないようなメニューが出てきて、それによって、無理やり食べさせられて、子供が保育園に行くのが嫌になるとか、いろんな意見も出てくるものですから、このアクションプランはいいですが、その辺の指導をきちんとしていただけたらありがたいと思います。

【仁科座長】 もちろん私立、公立に限らず、同じようなことをおやりになっていることだと思いますけれども。

【保育課】 保育課の大村と申します。

保育課のほうで栄養士が在籍しておりまして、基準の献立というのをすべての保育園あてに送っております。公立の保育園につきましては、基準の献立のとおりほぼ実

施されているのが現状ですが、私立の保育園につきましては、各園ごとに園長のいろいろお考えがある中で、調理の方との打ち合わせを行った後に決定されるという実情がありますので、こちらから送りました基準献立がすべからくそのとおりに実施されているという園ばかりではないということは把握しておりますが、園の管理者である園長先生のお考えのもとに運営されているというのが私立保育園の現状です。

【仁科座長】 ありがとうございました。

それでは、時間がまいりましたので、まだまだご意見があろうかと思いますが、このアクションプランにつきましては、既に8月に皆様方のご意見もいただいております。市が修正案を提出していただいたという経緯もございます。ただいま貴重なご意見もございますし、字句の訂正等もありますけれども、原則的には、本日表示されましたこのアクションプランについて、ご承認をいただいて、修正すべきところは修正するということで、こちらのほうの意見交換会は終わりたいと思いますけれども、修正案、原則としてお認めいただくということでよろしいでしょうか。

では、そういうことで、市当局におかれましては、本日の新しく出ましたご意見もございましたけれども、修正すべき点は修正していただきまして、19年度のアクションプランより市民のためになるようなプランの実行をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、時間がまいりましたので、一応、第1の安全対策推進事業の意見交換会はこれで終わりたいと思います。マイクを事務局のほうにお返しします。

【事務局】 それでは、ここで5分ほど休憩をとらせていただきたいと思います。前方にある時計で15分開始ということで、時間はちょっと短いですが、よろしくお願いいたします。

（ 休 憩 ）

第2回 静岡市食の安全・安心意見交換会 第2部

平成19年2月19日（月）

意見交換

テーマ 『静岡市における「食の環境整備」について』

乳幼児や児童一人一人が、生涯を健康に過ごすための適正な食習慣を身に付けることができるよう、乳幼児や児童を取り巻く食環境を整備するために、それぞれの立場で支援できることを考える時、理想とする支援は何か。

【仁科座長】 引き続きまして、今日の2番目のテーマでございます『静岡市における「食の環境整備」について』ということでご意見をいただきたいと思います。

このテーマにつきましては、趣旨説明ということでここに出ておりますけれども、市のほうからこのテーマについて提供されました趣旨を最初にご説明いただき、それからご意見をいただくということで進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

【事務局】 （資料にそって、説明。）

【仁科座長】 ありがとうございました。

このテーマにつきましては、既に委員の皆さん方から、それぞれご意見をいただいております。特に、食の環境推進についての市の保健課、健康づくり推進課、学校教育課、学校給食課からも実施しております内容についてお示ししてあります。委員の皆さんにつきましては、何かこの内容で最初に質問したいこと、あるいはつけ加えてほしいことなどございましたら、最初に各課から説明していただきたいと思いますので、いいでしょうか。お手元の資料ですべて理解していると解釈……。特に説明をしていただかなくてもよろしいでしょうか。

では、時間も押していますので、早速、交換会のほうに入りたいと思います。

この内容につきましては、事務局から委員の皆さんにあらかじめそれぞれの立場で今実施できること、あるいは実施してほしいことについての調査票をお配りしまして、それについての回答を6名の方からいただいております。

なお、回答がなかった方につきましても発言を制限するわけではございませんので、あらかじめ承知していただいて、ご意見をいただきました順番で趣旨を説明していただく、あるいはご意見をいただくということで進めていきたいと思います。

なお、座長の不手際で時間があまりないものですから、4時 10分ごろを目安に会を終了したいと思いますので、協力方よろしくお願ひしたいと思います。

また、本日の意見交換会につきましては、一般の傍聴者からもご意見をいただくということになっておりますので、私の独断で、いただきたい内容等がございましたら意見を求めることもあろうかと思っておりますので、その節はよろしくお願ひしたいと思ひます。

最初に、生活協同組合のコープ、小林委員からご意見が出ておりますので、その内容について、簡単にご説明をお願ひしたいと思ひます。

【小林委員】 「食育」そのものは昔からあったわけですがけれども、コープしずおかで「食育」という言葉そのものを言葉として使ってきた経験はないんです。ただ、生協そのものが食の安全・安心を基軸にしていろいろな活動を進めてきました。

ここにも書いてあるように、産地交流、料理教室、子育ては子育てという分野を持っていまして、そこでの食に関する活動等を進めてきました。

ただ、最後のところにも書いてあるのですけれども、最近話題でテレビなんかでいろいろ問題になっていることもあります。何が大事かという、正しい情報をタイムリーにきちっとお知らせすることが、今一番求められている中身ではないかと。私たちは組合員さんからテレビ、ラジオ、雑誌などの食の情報についてどう受けとめているかというアンケートを2005年度にとったのです。「すぐ飛びつく」という人も結構多いのです。1回は買ってみる。ただ、商品というか物にもよるのですけれども、エコザイム、機能性食品というのはまず疑うというのが大半です。大豆や昔から日本人が食されている物のテーマについては気安くかわれる、食されるという傾向があります。

ただ、ご意見を伺いますと、最終的には自分が判断するんですよというご意見が多く聞かれています。自分で判断するとなると、本日の資料にも書いてありますけれど

も、正しく判断できる情報をどうやって正確にお伝えできるかというのが一番大きな課題ではないかと私は考えております。

【仁科座長】 まさにそのとおりだと私も思います。特に最近起こっている情報を取捨選択する能力、「メディア・リテラシー」と呼んでいる方もおりますけれども、それに欠ける人が大勢いる。あるいは、メディア・クラシーという言葉もございます。巨大メディアがその力を利用して世の中を動かすような傾向のことを言いますけれども、つい最近もあるメディアが、納豆が効くとか効かないということですぐ飛びついていく傾向があるということで、まさに今、小林委員がおっしゃったようなこういう問題について、まず、私たち市民側が勉強していく必要があるのだろうと私も思っていました。それについてどのようなことをやっていけば、あるいはどういうことをこれから行政のほうに要望すれば、それらが解決していくのかということも踏まえて、また後からご討論いただければと思います。

続きまして、杉山委員からご意見をいただいておりますので、よろしくお願いします。

【杉山委員】 この課題をいただいたときに、直接に乳幼児や児童に私のところではちょっと環境的に距離があるかと思いましたが、乳幼児や児童というのは、ほんとに健やかにすくすくと伸びていく時期であります。一方で、自分で何でもかんでも取捨選択できるという時期ではなくて、周りにいる大人が伸びる子供たちの環境を確保していかななくてはならないという大事なときだと考えまして、そのための家庭の力というのが十分だろうかというところを点検してみました。

それはどこかで、実は私たち味の彩り研究ネットワークは、身近なところでアンケート調査等も行いまして、年配の方々は、まずもって暮らしの中で一番大切なことは食べることだというふうにわりと反応するんですけども、若い世代になるほど、二十代、三十代、四十代、忙しく働いている世代になるほど、「食べることよりもっと大切なことはある」というような項目に丸をつけて、食ということに関する関心、ウェートが非常に落ちているという結果も身近なところでも出ています。

二十代後半～三十代くらいの若い人たちがまさに幼児・乳幼児を育てているときだと考えますと、この方たちがフルタイムで男性も女性も働いて、かつ職場で能率や効率が非常に求められていて、それが経済というものに結びついていくときに、命が育つということに関しては時間がかかる、時間をかけるものだ、という丁寧な暮らしを

つくり出していく視点というのが、どこか落ちていってしまうのではないかなということに、非常に危惧を感じております。生きることと食べることというのは、非常に根っここのところで深くつながっていきまして、私自身は、生産者の立場で今の考え方を最もベースに置いて農業を営むという形の中で、間接的に乳幼児や児童が育つ過程の食環境というものを応援していきたいと思っています。

実際、私たちがほんとうのもの、安全で安心、新鮮なものを提供する中で、お母さんたちが朝市とか産直で買ってくださる消費者の皆さんの直接的な反応の中で、子供たちがおたくの品物をずっと食べ続けていたら、流通の遠くを回ってきて手に入るミカンとかを、何か違う味だ、ほんとうの味がしないみたいだと反応してくれてとてもうれしく思いました。子供たちがミカンの味がわかるようになったというようなことをお金を振り込んでくださる通信欄に書いてくださったりすると、何か間接的にもこういう仕事をしていて良かったなみたいなことを思ったりいたします。

ですから、若い世代に非常に大きな要望になるんですけども、それは小手先のことでなくて、生き方として、もっとゆっくりと大事な命を育てるという視点に立って物事をやっていただきたいという意識に働きかけていかなければならない大きな課題かなと私は思いました。

【仁科座長】 ありがとうございます。

杉山さんからは食に関する知識、あるいは食べ物を選択する能力、食べ物の育ち方がわかるような能力、そういうことに関して支援、協力、応援していきたいという内容でございます。

次です。ヤクルト本社の相沢さんからもご意見をいただいておりますので、簡単にご説明をお願いします。

【相沢委員】 食品事業ということでヤクルトをつくっているんですけども、私個人の意見という形になるかとは思いますが、食べるということは非常に重要なことだと考えています。やはり気持ちと体、健康をつくるためには、当然食べるということが主になりますけれども、その中に運動や睡眠、そういった当たり前のことが入ってくるんですが、特に小さいころになじんだ味といいますか、小さいころ食べたもの、そういったものは食べ過ぎとか食べられなかったといったのは別としまして、やはり自分の中に受け入れる環境というのは当然できていると思います。

私どもは乳製品をつくっていますので、中には牛乳が飲めない、ヨーグルトは嫌い

だという小さいお子さんも当然いらっしゃるわけです。そういった中で今回のテーマをいただいたときに、難しいなと思ったのですけれども、では、それぞれの立場で支援できること、理想の支援は何かということを考えたときに、私も縁あって社会人となって、こういった食品の企業に携わっている、そういった中で、では実際に例を挙げると、工場見学をしてもらおうじゃないか、見てもらおうじゃないか、そういった中で先ほどから出ている子供たち、あるいは皆さんの判断を育成する中で、実際に安全なのか、おいしいのか、そしてまた家庭でちょこちょこつくるものが工場でこんなにいっぱい自動的にできている。そういったものを考えながら、それぞれ味なり安全なりを一人一人が判断しないと、食べたくないものを無理やり食べさせても、とてもじゃないけれども、それをおいしいとか、体にいいという自覚はなかなかとれなくて、逆にそれによって皆さんにはいいものだけでも、個人にとっては弊害になってしまう、そういったものがありますので、我々ができること、見てもらう、少しでもさわってもらう、そんなことが協力できたらなというふうに考えました。

以上です。

【仁科座長】 ありがとうございます。

続きまして、佐藤委員からご意見をいただきたいと思います。

【佐藤委員】 私、皆さんのご意見を読ませていただいたら、基本は家庭から子供へということなので、そこは一番の基本かなと思っているのですけれども、それがなされないということは、やはり一時期学校の家庭科をおろそかにした部分というのがあったのかな、それがこんな形であらわれているのかなと、独断ですが思っていますので、何とかお手伝いをしたいと思います。

小澤さんとも比較的意見が似ていまして、新しく親になる人たちへの「食育」の計画ということで、できれば「食生活全般」、「食への考え方」、そこに書いてあるようなことですが、今、いろいろな業者が悪質な呼びかけをしております、民間団体が呼びかけるとするのは、比較的まゆつばで見られる部分もございますので、行政が呼びかけをしてくださって、あとは運営をそちらへと言ってくだされれば、いつでも応援はできますということ考えています。

次の2つ目のところは、「作るよろこび」とかそういうようなところです。うちのそばに私立の幼稚園があって、たまたま恵まれていまして畑があるのです。子供たちがさくら組、つつじ組ということで、自分たちが大根の種、菜っ葉の種をまいたり、お

芋の苗を植えていまして、とても楽しそうに、まず種まきから始まって、草取りをやって、収穫があると幼稚園に持って行って食べる。

幼稚園の先生方のお話を聞くと、嫌いだと言っていた菜っ葉や何かも自分がとった物だとほんとに一生懸命食べると。やっぱり、土に自分が種をまいて、芽がどのぐらい、3 cmになった、5 cmになったと言いながら、大きくなって、それをとった、それを幼稚園の大きなお鍋でグツグツと煮て、それが自分たちのお皿に盛られたときに、「先生、これ、私がつくったんだよね」と言ってたくさん食べると。食べるようになったことをお母さんたちが喜ぶというお話をたくさん聞いています。

そのようなことで、やっぱり「つくる」というところをもっと経験させていく必要があるのではないかな。

種まきが大変であれば、まず、トマトをとるとか、大根を掘るとか、そういうことだけでも、とにかく何か食べ物の作業に参加するということが大事かなと思います。

○（マル）のところで、「～ファミリーで食工（ショック）デーを企画」と書いたのですが、「食の工夫デー」ということで、さっきアクションプランで何とかまつりが出ていたのですが、まつりではなく、こんな感じで楽しく呼びかけて、とにかく親子で参加する、そんな企画をつくっていったら、少しでもみんなが、あっ、やっぱり食べ物は基本だということになるかなと思って、思いつきで書きました。

3つ目ですけれども、今、そこにいらっしゃる海野フミ子さんたちと「生消菜言（せいしょうなごん）倶楽部」というのをつくらせていただいて、私も大豆づくりやいろいろやって、ほんとにいろいろ勉強させていただいたのです。多分、後でフミ子さんからあると思うのですが、親子で参加していらっしゃって、落花生づくりなんか子供がすごい喜んで参加しているんですね。そういう地域、地域で、（広い区域でやると自動車で行かなきゃいけないというのがあるのですが、）近場で親子で参加できる。そういう生産者と消費者と行政が一緒になって取り組める、そんな方向を検討していったらいいのではないかと思います。

以上です。

【仁科座長】 ありがとうございます。

それでは、小澤委員のほうからお願いします。

【小澤委員】 私が食の環境についてというところでいつも感じていることですが、私ども、私たちは食推で小学校なんかへ行くときがあるわけですが、そこでいつも感

じているのですが、ほとんど何もわからない。でも中には男の子でも手際よく包丁を持ってやる子もあるわけですよ。聞いてみると、いつもお母さんのお手伝いをするとか、お母さんいないので僕がやるとか、そういう子もいるわけですが、女の子でも全然触ったことがないという子も結構いるわけです。そういうのを見ていると、ああ、やっぱり何かにかかわっているといろいろなことがわかってくるけれども、全然かかわっていないと、とにかく私、食べる人という感じになっているものですから、そういうのを見ていつも感じていることなのですが、昔でしたら、ほんとに家庭の中でみんなで食事をする中で、自然と何も言わなくても伝わってくる。そして周りに田んぼや畑がいっぱいありましたから、そういうのを見て、子供たちは特別教えなくても自然とわかってくる部分があったと思うのですが、今はそういうものが全部消えてきているんです。それを嘆いていてもしようがないわけです。子供たちの様子を見ながら、これは母親の教育をやり直さなければだめだなんていう話をしたりもするんですが、そういうことがすごく多いわけです。

小学校なんかに行くと、ほんとに食べることに、要するに生きること、それが一番、人間がこれから長い間生きていく上で、最近いろいろ子供たちの事件もあるわけですが、命の大切さとか、生きていくのにどうかというようなこと、それが算数や国語と同じように学校で基本的なこと、教えてもらったら大分違うのではないかと思います。

体験学習というのは、先ほどもちょっと言いましたように、周りに田んぼにしろ、畑があって、子供たちが見る環境じゃないものですから、今、お隣の佐藤さんが言ったように幼稚園とか、中には小学校でも田んぼや畑をやっている学校もあるみたいです。また、たまたま外国の資料を見ましたら、やはり学校の中に畑をつくって子供たちがそこでいろいろなものをつくって、それで調理をして食べるなんていうのもありましたので、別に日本だけではなく外国でもやっぱりこういうのをやっているのだと思いました。こういうことはとても大事な、ほんとうに生活の中の基本的なことではないかと思います。

3段目の私たち食推協ですが、今、小学校へ行くといいましたが、小学校もそうですし、お母さんたち対象とか親子を対象にする、または高齢者・近ごろは男性の料理教室がありますので、そういうところでいろいろそんな話をしながら、みんなで楽しくお料理をやっていると。男性もこのごろは結構参加する人が増えていますね。ほん

とに年をとってきますと、夫と妻とどっちが先に倒れるかわからないわけで、妻が後に残ればいいわけですがけれども、逆になると悲劇だと言うのです。ほとんど何もわからない。特別難しいお料理をつくらなくても、ほんとに基本的なものができれば生きていかれるわけなので、それでいいわけです。

ほんとうに食べることというのは、生きていく上の中で中心的なもの、なくてはならないものということです。家庭でも、できる限りですがけれども、無理だったら学校で基本的なことをぜひ教えてもらって、私たちはボランティアですので、声がかかればどこへでも出ていきますので、子供たちと一緒にやったり、私たちが行くと先生も一緒に混じってお料理したり、何かしていますので、そういうことがもっと広がっていくと大分変わってくるのかなと思っています。

以上です。

【仁科座長】 ありがとうございます。

では、静岡市農協の海野委員からお願いします。

【海野委員】 私は生産現場から、子供が小さいころから好き嫌いなく育っていくことがとても大切なことではないかと思っていて、それにはやはり農産物がどのようなしてつくられていくかということを経験させていくことは、とても大切なことだと思っています。

そして、食べ物の旬はいつなのか、旬のもの、とれたてのものを食べたらどんなに美味しいか、そういったことが今、子供たちにはあまりにも経験がなさ過ぎるように思っています。

先ほど佐藤委員から出ましたように、「生消菜言（せいしょうなごん）倶楽部」というクラブの中では、母親と子供たちと一緒にいろいろな農産物を栽培して、それを食べる。それに対してのいろいろな意見を聞いたりして、農薬の問題、肥料の問題とかいろいろな話を聞かせていくわけです。そんな中で、1つ出て私たちがびっくりしてしまったことが、若い母親から、「ナスは着色してあるから私は食べない」と、「えっ！」と思ったんです。みそ汁に入れたときにナスは色が出る、あれは着色だ、だから私の家では食べないと。でも、決してそういうことはないですよという話を交流会の中ではできていくのです。色が出ないようなみそ汁をつくるにはどういう品種のナスを選べばいいかということも話ができてきました。

「生消菜言（せいしょうなごん）倶楽部」のような、生産者、消費者、子供たち、

いろいろな食材関係の方たち、行政さんたちが入っていけばもっといいのかもしれないですけども、こういったことをもう少しこの地区でもやれるようなことがいいのではないかと思います。また、行政でもその辺のところを考えていただけたらありがたいと思っています。

また、J Aとしまして、じまん市が3店舗、今度、長田にできまして4店舗になるわけですけども、そこを中心に旬の野菜が売られておりますし、そこを中心にいろいろな活動、ここに書いておりますようにガーデニング教室、料理教室、いろいろな農作業体験とかいろいろやっています。

昨日もクッキングバトルという名前で小学生とその親を対象にありました。それは、まず、じまん市で子供たちに食材を買ってもらう。買ってもらったところに料理教室があるものですから、その料理教室で自分たちで考えたメニューで料理をつくる。3人1組で料理をつくるのです。今度につくった料理のコンクールをやり、それを審査して賞を出すということです。ほんとに包丁を使ったこともない子供もいますし、非常に上手に包丁を使えるような子供もいました。そういったことをやっていくことが非常に大切だと思います。前に魚のことをやったときには、静岡の魚を使って何かができないかということになったら、サケが出てきた。静岡でサケがとれるのかとれないのかということもやっぱり子供たちは知らない。J Aや、じまん市を通して、現場の活動をきめ細かにやっていくことが非常に大切なことだと思っています。

【仁科座長】 ありがとうございます。

あと、ご意見を発表されなかった方でございましたら、簡潔にお願いしたいと思います。

【藤嶋委員】 先日、飲食組合で浜松大学の健康栄養学科の近藤先生に「飲食店における良好な食事バランス」ということでお話ししていただいた。ヘルシーメニューを提供したらとか、「バランスガイド」による表示をしたらというお話をしていただいて大変勉強になったのですが、実際にヘルシー感のあるものは売れるのですが、ヘルシーなものは売れないのです。非常にその辺が現実なわけで、売れないものをやっぱり商売にするわけにはいかないので大変に困るわけです。

今日、私がお話をしようと思うのは、皆さん学校の話をよくされましたから、私も思いますけれども、学校で先生が子供に対して健康、ヘルシー、体にいいというものを教えて、その子供がお母さんをお願いをして、家庭から健康をつくり出すというお

話をちょっとさせていただきたいと思います。

体にいい食事というのは、大体わかっているわけです。ですから、テレビで何々食品がいいとか悪いという、もうすぐ反応してさっきの先生のように、納豆やみそ汁ダイエットとかという飛びついて買いに行く。やっぱりコープ静岡さんも納豆は売り切れちゃいました？ 売り切れちゃって、株まで上がったと。漬け物の話じゃないけど。

簡単に目的が達成されるという飛びつくんだけど、ふだんはそういう人は何もやっていない人ではないかと思っています。

中国で、今、万博とかオリンピックというのを控えて、マナー教室というような教育を非常に一生懸命やっているようです。世界中からお客さんが来たり、世界中へ今1,500万人ぐらい出ているそうです。ですから、マナーというものが非常に悪いということで教育を一生懸命やっているとテレビでやっておりました。

上海に白い道路があるのですが、その横断幕に「かわいい上海人になろう」なんていう歯が浮くようなスローガンがかけてあるそうです。国際都市としてのマナーアップをアピールしようということでしょうけれども、よく聞いてみると、「ルールを守ろう」とか「よい人になろう」という解釈のようです。しかし、ほんとうに真剣に取り組んでいるようです。

その取り組み方が、小学生の子供にマナー教育をして、お父さんがたばこを吸いながら道路を歩いていると、お父さん、それはよくないですよという話をしたり、赤信号で渡るなんて当たり前のようにやっているのですが、それはいけないということをお父さんが親に話をするということで教育をしようとしているのです。

私も10年ぐらい前に息子と二人旅で北京に行ったことがありまして、つばをパッと吐いてしまったのです。そしたら、監視員みたいな人がいっぱいいるんですが、バーッと出てきて、中国語でベラベラって言われて、あっ、これは何か怒られているなというので、5角というお金を罰金払って、領収書もらって、今、アルバムに張ってありますけれども、5円だか7円ぐらいだそうです。黄砂でしょうか、いがらっぽくて、私も何でつばなんかしちゃったのかなと思うのですが、昔からそういうのは罰金です。それでもマナーは向上しないというのが中国なわけで、子供から親を教育しようということで、市を挙げて一生懸命、ほんとうに真剣にやっているようです。

今、言わんとすることは、30代～40代のお母さん、全部とは言いませんけれど

も、御飯にコーラです。味もわからないですね。何を食べたら体にいいのか、健康にいいのか何ていうことは、ほとんど考えていないと思うのです。そのお母さんに、「子供の健康を」、「母親教室をやりましょう」なんて言っても絶対に出てこないと思います。ですから、お母さんを教育しなければしょうがないわけですから、その教育をどうするかという話です。

例えば、朝、10分ぐらいかけて「今日、大便出た人！」「出なかった」と言ったら、「どういう食事した？ 繊維質の多いものを食べましたか」なんていう話をして、お母さんをお願いしたらという話をして、そういう方針をしっかりとすれば、メディアもそれに沿った番組をつくってくれたり、あるいはスーパーでもそういうものを表示していただくとか、みんなが協力し合ってやれば、行政のほうは「子供から親へ」という大方針を掲げれば、そういうこともできていくのではないかと思うわけです。

中国でも歯が浮くようなスローガンを真剣に、まじめに取り組んでやっているわけですから、我々もやっぱり格好つけないで、そういうところから始めたらどうかということをも中国のテレビ番組を見て思いましたので、参考になればと思って発表いたしました。

以上です。

【仁科座長】 ありがとうございました。

齊藤委員、ただいまのサケが静岡でとれるかどうかともわからないというような消費者もいるというお話が出ていますけれども、漁業の立場から何かございましたら。

【齊藤委員】 特に、シラスを含めまして、静岡に港があるということを知らない人が結構静岡市民は多いものですから、特にそのことに関してびっくりはしません。ただ、現場ではいろいろな魚もいますし、食べ方もありますので、現場での食べ方等もほんとの味を知らないで加工食品にばかり頼っていると、地元にながら一度も地元の産物を食べたことがない、こんな人生は寂しいですから、ぜひとも一度は地元にある産物、農産物でも水産物でもいいですから食べることを心がけてもらいたいし、啓発活動は自分たちを含めてやっておりますので、皆さんの協力をお願いします。

もう1つ、安全はわかるのですが、子供たちに、これは食べられないという基準を教えないと、消費期限なり賞味期限で判断すると、日の当たるところに置けば、賞味期限が1週間であろうと食べられなくなるものはあるのですから。あけたときに、におう、苦い、そういう五感を通しての味を感じないと、ただ数字だけを

見て、あと幾日あるから大丈夫、牛乳でも賞味期限が1週間あろうと日なたに置いておけば腐ります。

賞味期限があるから平気で飲むというのではなく、食べ物に関して安全かどうかというのは自分が決めることです。その基準を教えていかなければ、ただ安全なものだけを与えても、安全なものを食べなければいけないときが来るのです。震災もきますし、災害も来たときに、はっきり言うとそんな安全なものばかり食べていられないのです。だから、今、日本人はあまりにも平和ぼけし過ぎて安全なものが当たり前で食べられるようになっていますが、安全でないものを食べる方法を考えると、自分でこれくらいは大丈夫という基準を判断していかないと、いつの日かそのようなときがきたときに困るのではないかと個人的に思っています。

【仁科座長】 ありがとうございます。

皆さんからご意見をいただきましたけれども、食育の定義というところにもございますが、食に関して考える習慣だとか知識の習得、あるいは判断能力を身につけるといふことに尽きると思います。こういうことを具体的にどういうふうに市の行政に反映していくのかということが一番の問題になるかと思います。それぞれの立場でいろいろな協力をしていただけるということでございますけれども、こういうご意見を踏まえて、白木先生、基本的に食育ということを先生の立場からご説明していただければ。

【白木委員】 私も、今までの委員の方からもたびたびのお話がありましたけれども、食環境の整備はほんとに広いです。その中で、やはり教育といいますか、責任といいますか、そういうものは非常に大きいだろうと思います。

私も現在、大学生に今の食習慣が身につくのに今までどういうところで影響を受けたかという調査をしたときに、親もあるのですけれども、結構高かったのが小学校のときの担任の先生が学校給食をどう思っていたか、どういう指導をしたかということが非常に大きなウェイトを占めています。

やはり身近なところにいる人の影響を繰り返し受けているわけで、その人がどうであるかということが大きくなってからも、そのとき刷り込まれたものが非常に影響しています。

私は栄養士を養成している学校ですので、そのときに栄養士さんはどうだったかということ聞いたのですけれども、やはり栄養士の数も少なかったこともあって、栄

養士の影響よりも担任の先生の影響のほうが非常に大きかったということで、改めて、お母さんへの教育も先ほど出ていましたけれども、それよりも、まず子供が何をどれだけ食べたらいいかを考えられる力を教育の場でつけてほしいと思います。

やはり、親、家庭の能力というのは、今はかなり落ちていまして、親に期待できない部分がありますので、私は直接子供に刷り込むことが今は非常に大事ではないかと思っています。それには、行政と教育の場の連携、あるいは消費者、生産現場との連携ということで、やはり学校がもうちょっと開放的にというか、いろいろなところが連携して、もっと積極的に考えていってほしいなと思います。ほんとに子供に考える力をつけさせるような教育を推進していただきたいと思います。

【仁科座長】 ありがとうございます。

では、ここで、静岡県内には関東地域食育推進ネットワーク、通称「食育ネットしずおか」というのがありまして、委員の皆さんの中にもこのネットワークの中に入って「食育」ということについて協力をしていただいている方がいらっしゃるようでございますけれども、これを主催されております農政事務所の方が今日、傍聴席に参加されていると伺っております。

ただいま皆さん方から出てきたようなことにつきましては、既にネットしずおかの中でもかなり実践されているのではないかと考えられますが、こういう意見を踏まえて行政側に対して今までやってきたネットの結果を踏まえて、何かご意見等ございましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【関東農政局静岡農政事務所 消費生活課】 本来なら消費安全部長が出席する予定だったのですけれども、会議が入りまして、私が代理で説明をさせていただきます。

今、「食育ネットしずおか」のお話が出されたのですが、これは食育に携わる、行政なり生産者、消費者、医療機関とかいろいろあると思うのですが、それらが連携をもって食育の推進に当たっていくということを目的に3年ほど前につくられました。その当時から「食育」という言葉は言葉としてあったのですが、個々に、例えば学校なら学校だけ、医療機関なら医療機関だけ、生産者なら生産者だけ、行政は行政だけという形でバラバラに推進をしていたと。先ほども委員の方からもお話があったのですが、消費者とか生産者が連携してとか、そんな話が出たかと思うのですが、それぞれの方面が連携して食育の推進に当たっていく。

例えば、先ほど学校で生徒さんに食育の指導をするというお話があったのですけれ

ども、そういった指導をされたら、そこで仮に食に関心のある生徒さんができれば、今度は工場見学なり生産現場に行って農作業の体験をすとか、そういったつながりを持っていければという形で思っております。

私どもは昨年、農作業体験、その収穫物をもとに調理体験等をやってきたのですが、今回も委員の方々、生産者の方、調理の指導をしていただける方、流通業者の方がいらっしゃいますので、また皆様と連携を持ちながらそういった体験をしてもらうような取り組みをしていきたいと思っております。

言い忘れたのですが、食育基本法というのが2年前にできまして、それぞれ厚生労働省、文科省、農林水産省の持ち分があるわけですが、農林水産省としては、今申し上げたように体験ということに重きを置いてやっております。ここにいらっしゃる皆様方とご協力いただきながらそんな方面で取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

【仁科座長】 ありがとうございます。

意見の中には、家庭での教育が非常に重要だということもございました。そこで、今日、一般の方で参加されている方の中にご家庭の主婦の方もお見えになっているようでございますけれども、今のご意見をお聞きして、もしできましたら、そのご感想をお聞きしたいということと、あるいは食育に関してもう少しこういう方面に取り組んだほうがいいじゃないかというご意見がございましたら、せっかくの機会ですので、時間もございませんが、簡単にご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

ございませんか。あまりかたくならずに、ぜひ、いい機会だと思いますが、いかがでしょうか。

いいでしょうか。

実は、家庭での母親の役割というのが非常に大きなウエートを占めている、ですから、お母さん方もしっかりしてほしいというご意見もございましたけれども、子供の教育というか、保育園の関係でお母さんたちと直接接触していらっしゃる市のほうの立場から、お母さん方、あるいはただいま出たご意見に対して何かサポート的なものがございましたら、ちょっとお話ししていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【保育課】 今日、資料のところにも保育園のほうで行っております食育支援を推進するという事の中で、いろいろな環境整備をしたいということで取り組んでいる事柄につきまして書いてございます。

今、保育園は、子供たちは低年齢でありますので、食べるという体験を通して味覚も、それからどんなものを好むのかという味の事、好む物、食べる量の事、そんな事を体験することによって自分がどんなものをどういうふうに食べればいいのかということをしつづつわかっていくということを念頭に置いた中で、子供と保育士の先生がかかわるようないろいろな事業を展開しております。それは、保健士の先生方と私ども課のほうにいる栄養士、あるいは調理の方との話し合いの中で行われている事業です。

もう一つ、保育園の中では保育園児以外に地域の子供たちを対象にしまして、少し子育ての支援ができないか、子育て環境の支援ができないかということの中で事業展開をしております。

その中に地域のお母さんが見えになるわけですが、先ほど委員の先生方がいろいろおっしゃってくださいましたように、食べるということをしっかりとらえて子供の生活の中に根づくような形で生活習慣、食の習慣をつくろうという意欲のあるお母さまもいらっしゃるわけです。また、そういう事業にお出かけになる方は、そういう意識を持った方が結構お出でになるわけです。ところが、そういうところに参加する機会がない、あるいは参加しにくいという立場の方のほうが、なかなか子供たちに食べる事の大切さを伝えていけるような環境にないのではないのかということもいつも考えております。そういう中でそういう方たちへの働きかけをどういうふうにすればいいのか。ちょっとした、例えば相談事業みたいなものを保育園のような場の中で定例的に開催することによって、ちょっと寄ってみようかなということで相談受け付けができるといいのか、あるいは、これは私個人の考えですが、子供たちが体験することによっていろいろなことを覚えるということの中では、つくる体験ということから言うと、静岡市の中には、子供が調理をできるような環境にある調理室がないわけです。ですから、理想的に言うと、ほんとにそういうものもあるといいんだらうとか、いろいろな願いとか思いはありますけれども、実際、現状の中でできることで、保育園の中では事業展開をしているという状況です。

【仁科座長】 ありがとうございました。

今日のテーマ、大変大きなテーマ、しかも重要な、最も私たちにとって基本的な食べる、食の環境整備ということでございまして、いろいろな立場の方からご意見をいただきましたけれども、やはり、皆さんそれぞれ立場によって取り組み方が違いますが、これからやっていかなければならないこと、あるいは協力できることということに関しては、ほぼ同じご意見ではなかったかと思います。

これをいかに市の行政に推進していってもらおうかということが、実は一番重要なことだと思うわけでございます。中に行政が主体となって、イニシアチブをとってそれぞれの団体を引っ張っていただけるようなことをやっていただけるとありがたいというご意見もございました。

それぞれの立場の人たちが有機的なつながりを持って食育の推進ということをやりながら、行政と一体となってやっていくことが、より効果的なことにつながっていくのだろーと思っています。

最初に申し上げました時間が4時10分というところで、実はまだまだご意見をいただきたいし、委員の皆さん方も言いつ放しではということもあるかと思いますが、時間がまいりましたので、この辺で食の環境整備ということに対するご意見の討論を終わりたいと思います。

市の皆さん方におかれましては、本日のご意見の中から取り入れられるものは取り入れていただいて、今問題になっている食の安全・安心を取り巻く環境の整備ということに取り組んでいただければと思います。

それでは、これで終わりたいと思いますが、何か。

【保健衛生部長】 いろいろとご意見をありがとうございました。今の件につきましては、そもそもほんとに食育のことです。私どもが来年度策定いたします「食育推進計画」に貴重な意見として反映させていただきたいと思います。

なお、計画づくりにおきましては、タウンミーティングだとか、パブリックコメント等も実施いたしますので、どしどしご意見をいただきたいと思います。

なお、食育推進計画は計画をつくるだけではありません。協議会で推進をしていくという会議でございまして、今までの私どものやり方としては、ただ会議で計画をつくって、後は任すではなくて、協議会のほうで推進していくというような仕組みになっておりますので、よろしくお願いいたします。

【仁科座長】 ありがとうございました。

それでは、これで2番目の「食の環境整備」の意見交換会を終わりたいと思います。

貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。今後とも市の行政に積極的なご協力をお願い申し上げまして、この会を閉じたいと思います。

ありがとうございました。

(拍 手)

【事務局】 仁科先生、どうもありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、大変長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。

今年度の意見交換会はこれで終了となります。昨年から引き続き今年度にかけて委員を委嘱させていただいた方、9名ほどいらっしゃいますけれども、ここで食の安全対策推進連絡会の副会長であります村上保健所長よりお礼の言葉を述べさせていただきます。

【保健所長】 保健所長の村上でございます。本日は「静岡市食の安全・安心意見交換会」に長時間にわたりまして、非常にご熱心に、そしてまた有意義なご意見を賜りましてまことにありがとうございました。

私も2年前まで臨床医をやっております、健やかに長生きをするためには、まさに「医食同源」ということで強く訴えておりましたので、今日は皆様方のご意見、まさに同感でございます。これにつきましては、ご指摘がございましたように行政といたしましては、一体となって皆様方のご意見を反映させていく所存でやってまいりたいと思っております。

委員におかれましては、大方の委員の方は2年間、一部の方におかれましては1年間委員としてお務めいただきましてまことにありがとうございました。特にアクションプラン立ち上げに際しまして、非常に貴重なご意見、有意義なご意見を反映させていただきましてまことにありがとうございます。今後、軌道に乗りつつございます、ますますよいものにしてまいりたいと思っております。今後のご指導、ご支援、今までと変わらぬようよろしくお願い申し上げます、私どものお礼の言葉といたしま

す。

2年間ありがとうございました。

【事務局】 それではこれをもちまして、平成18年度第2回食の安全・安心意見交換会を閉会させていただきます。

いろいろとありがとうございました。

なお、今日、あさひテレビが取材に参っておいりましたけれども、6時17分以降のテレビの中で放映がされるということでしたので、もし、お時間のある委員がいらっしやいましたら、見ていただければありがたいと思っております。

どうもいろいろとありがとうございました。

— 了 —